

平成30年度 事業活動報告に関する件

法人全体から見た課題

1 平成30年度の方針のふりかえり

平成30年度は、「自立支援のために新たに生活援助事業を開始する」と、「利用者と親のニーズにいかにか創意工夫をして応えていくことができるのかを常に考え、謙虚に、誠実に実践をしていく力をつける」ことを法人全体として重視し、そして、下記の「5つの基調」と「8項目の各分野の課題」が進められました。

5つの基調

- ①利用者本人のニーズに基づく個別支援計画の推進を基本とし、親と利用者、職員が信頼関係を深めながら、安心して生活できる事業所づくりを進める。
- ②「量は質をつくる」を理念とし、ポレポレの各事業所で、定員確保の具体的目標人数を定め、質の良いサービスの提供を行うことと合わせて、目標を達成していく。
- ③各職場での日常のなかで出てくる利用者の様々な変化や、ニーズ等について機敏に受け止め、職員間で情報を交換し、意見を出し合うことで学び合い、職員の輪をつくる活動を日常化する。
- ④運営委員会をつくり、ポレポレらしい「まつり」をみんなの創意でつくりだす。
- ⑤自立を支えるグループホームの事業活動をみなさんの支援を受けて進める。

8つの分野別課題

- ①定員確保のとりくみ
- ②グループホームの支援の内容づくり
- ③ポレポレまつりの創設
- ④コミュニティーガーデン四季の里の施設建設と環境整備を実現する3000万円の寄付金の達成に向けた取り組みの推進。
- ⑤児童発達支援事業所「なかよし」の充実
- ⑥コミュニティーガーデン四季の里の活動展開
- ⑦31年度の新卒者採用及び、将来の職員採用につなげる取り組み
- ⑧職員のスキルアップ及び処遇の改善で、やりがいのある職場をつくる。

2 活動報告と課題

- ① 各事業所の月2回の会議の中で利用者の個別の状況や支援の方向について職員間の話し合いが順調に進められています。全事業所で、一步一步と支援の内容が深まってきている実感があります。しかし、日々の支援の中では、会議で確認された以外の、その場で個人的な解決がせまられる様々な困難や問題のある事例に直面をすることも多く、その解決策として個別対応を迫られた困難事例を職員間の共有にするために、緊急の会議を設けるなどの対応をする事業所も出ています。

親への理解とつながりを深める活動として、ハーモニーの「ハーモニーまつり」とポレポレハウスの「事業所見学会とふれあい交流会」を上げることができます。事業所見学会では、我が子が生き生きと働く姿を見ることができた親の方々から、安心との声を頂くことができました。

「児童発達支援事業所なかよし」が個別成長記録を写真として親にプレゼントをしたことは、障がいを持つ親への大きな励ましになる温かい活動として見つめることができます。このような成

果が見られる一方、全体として、もっともっと一人一人に寄り添う支援を深めていきたいとの思いが職員の間に見られるものの、思いを現実にしていく支援にはまだまだ遠い現状です。そこで下記のような課題を職員間で共有するの必要を感じます。

イ) 事業所だけでの支援には限界があることに気づく困難事例について、親の理解と協力で療育効果を上げる。親に協力を求める「親との共有」活動の視点を広げるの必要を感じる。

ロ) 困難事例の中で「首を絞めたくなる衝動に駆られる」という父母の心の疲弊に対して、「一人の親を救おう」という視点での活動があちらこちらの事業所で展開される力を持ちたい。

ハ) 個別支援の充実と職員間の共有、職員のスキルアップには、サービス管理責任者の力が大きい。サービス管理責任者の役割が深まるように組織的な取り組みが必要である。

- ② グループホームが2018年5月7日に開所。職員のつながりや、ポレポレとつながりのある方、ハローワークからの紹介等17人の職員構成で月曜日～土曜日までを支援することになりました。この中では、一人一人への個別の援助の在り方と共通の仕事内容の統一について、職員の手探りの努力がなされました。家に帰りたいという入居者も出ず、一年を経過しました。ホームを作ってわかったこと「土曜日・日曜日の開所は?」「病気になった時の支援の在り方は?」「日中活動の場が休みの時の支援の在り方?」等 課題が見えたことが何よりの成果と言えます。これから、課題の解決に向けて、本格的な支援に向かわなくてはなりません。

- ③ 6月30日「第1回ポレポレまつり」を開催

利用者・ご家族・職員・寄付をして下さった方を中心とし、まずは事業所間交流を大切にすることを目的として取り組みました。

場所 コミュニティーガーデン四季の里にて開催

参加者 名

実行委員会をつくり、若い力が作り出した「まつり」になったことに大きな意義がありました。第2回に継続することが確認されたことが大成果となりましたが、課題としては、参加者動員目標がなく、そのための点検活動がなされなかったことで、参加者が少なかったことです。運営を担当する人とは別に、動員目標達成の担当者を置き進める組織力を身に着けることが大きな課題となりました。

- ④ 求人誌や求人サイトに新卒者求人募集を掲載しました。その結果、福祉大学卒業の新卒者を採用することができました。放課後等デイサービスでは、保育士が基準上大変重視されてきており、保育士を求めていましたが、採用はできませんでした。法人全体のパンフレットを作成し、保育専門学校まわりを来季6月より開始し、障がい児療育への宣伝をし、2020年をめどに採用できるように活動することが確認されています。

- ⑤ 各事業所の定員確保は、生活介護事業所ハーモニーと地域活動支援センターわととで達成されていますが、定員の確保がされていても、欠席者がいると定員に満たない場合もでてきたり、台風等の影響で開所ができなくなると即、経営に影響を及ぼす業界です。平成30年度も何度もそういった状況がありました。ポレポレの継続には、各事業所の定員確保が欠かせませんが、この課題は、なかなか成果が見られるものではないので、つつい後回しになりがちな課題ですが、放課後等デイサービスと児童発達支援事業所なかよしでは、日進市・長久手市・東郷町の支援センターへ「事業所を見学して下さる方を案内してほしい」と確保に向けた行動を具体化し、特に、

日進市の支援センターには、「公平に案内だけはしてほしい」と訴えたことで、2019年の確保に向けての布石をつくる努力をしました。この姿勢が、就労継続支援B型事業所ポレポレハウスにも伝わることを期待します。

、
 法人全体の現段階でのポレポレを広く人々に理解していただくことと、頑張っている職員のみなさんへの感謝と励ましを込めてパンフレット2000部を作成しました。ポレポレの職員が日々現場で奮闘している支援と目指している理念や思いを伝えるべく、3月から4月にかけて常勤職員の総力で作り上げました。このパンフレットに各事業所の発行物を差し込むなどして、定員確保に利用できる土台ができたことは大きな前進です。障害者福祉を多くの人々に理解していただく良い機会としたいものです。

⑥ 児童発達支援事業所なかよしが、放課後等デイサービス事業所との多機能事業所から単独事業所にしていく取り組みを目指しましたが、賃貸施設が見つからないことと、職員体制の確保ができず、31年度に持ち越されました。

⑦ 職員が仕事にやりがいを持ち、キャリアをアップできるには時間もかかりますが、現在は、個々の職員の努力に依拠しているところが多い状況です。他力本願になることなく、努力している職員の力は大きいものですが、法人として、職務・職責の明確化やスキルアップの目安、それに伴う賃金体系をさらに検証し深いものにしていく必要があります。

働き方改革が来年度から実施される中、職場での超過勤務、同一労働同一賃金の問題などの変化に対処できるような運営をしていく必要が見えてきています。「やるべきことはやる、働きやすい職場にする、そして豊かな人生も見つめる」そんな働きやすい職場を作り上げる努力を皆でつくるようにしたいものです。

⑧ 障がい福祉資源が少ない日進市の中で、ポレポレへの親の皆さんの期待の声がありますが、今年度は、各事業所とも足元をしっかりと見つめ落ち着いて事業所づくりに取り組みたいとおもいが強く、「3000万円の寄付金の未達成の達成」の活動が停滞しました。「コミュニティーガーデン四季の里の利用」についても方向が決まらない中、あまり手を付けない方が良いとの判断で、職員の山田さんと浦田さんの自主的な庭の管理に任せている状況となっています。ポレポレの10か年計画の方向がはっきりした上で、再度この課題を進めることとします。

就労継続支援 B 型事業所 ポレポレハウス

1.利用者状況

(定員 20 人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所 日数	20	21	22	23	21	19	23	22	20	19	20	22	252
延利用	293	294	306	331	299	256	304	295	260	274	264	291	3467

者数													
1日平均数	14.7	14.0	13.9	14.4	14.2	13.5	13.2	13.4	13.3	14.4	13.2	13.2	13.8

(1日平均利用者数 13.8人)

昨年度に比べ、平均利用者数が減少した理由として、長期入院が1名と長期欠席が2名によるものである。

2.活動報告

①視覚化支援

- ・各部署ごとにホワイトボードを活用し、1日の作業の流れが分かるように提示して自主的に作業に取り組めるようにした。

②作業内容

- ・内職を取り入れたことで、利用者が安定してできる作業が増えた。
- ・農作業では自給自足を目指し、自主製品の材料として使うことができるようにした。

③販売網の拡大

- ・日進市の小中学校、福祉会館や地域の施設などに営業に回り、販売個所を増やした。

3.成果

- ・「主人公は利用者である」を原点とした支援を心掛け、ボードを見ることで1日の作業内容を確認しながら、準備や作業に進んで取り組めるようになった。そのことで支援員の支持する声掛けが減り、落ち着いた作業環境が整ってきた。
- ・内職作業は一旦中断していたが、新たに協成産業よりスラブ（スポンジ）に両面テープを貼る作業が入った。作業内容は、治具（型）に合わせて貼る作業で、利用者が集中してやれることができ、安定した内職として行っていけるものである。
- ・販売においては、横ばい状態が続いていたが、年度終わりにかけ上向き状態になってきた。販路拡大に向けて、少しずつ販売場所が増えており1日2コースから3コースになる曜日も増えてきている。
- ・農作業では、野菜の種まきや苗植えから始め、収穫したものを好み焼きやお弁当の材料として使ったり販売することができた。収穫は楽しみにしており、自給自足の意識づけになった。
- ・職員配置が整ってきたことで、支援員と利用者とのコミュニケーションをよりしっかり取ることができるようになってきた。そこで、今まで見えてこなかった利用者の生活全体がわかるようになってきた。

4.見えてきた課題

- ・利用者の生活面がより浮き彫りになってきたことで、利用者のニーズにどのように答えていくかが重要となってきた。職員全体で情報共有し、自立に向けての支援を深めていく。さらに支援センターと綿密に連絡を取っていく中で、社会資源を利用しながら充実した生活を送れるようにしていく。

- 販売網をさらに拡大し、工賃アップを目指していく。
- 定員20名確保するために、日進近隣への行政や学校へ宣伝し新規利用者確保につなげていく。

生活介護事業所 ハーモニー

1. 利用者状況 (定員 20名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	21	22	22	20	20	23	22	21	19	20	21	252
延利用者数	397	402	413	452	385	350	421	404	374	342	374	381	4695
平均(人)	18.9	19.1	18.7	20.5	19.2	17.5	18.3	18.4	17.8	18	18.7	18.1	18.6

[1日平均利用者] 18.6人 (登録利用者 25人)

[新規利用者] 自閉症 1名 知的障害 1名 精神障害 2名 計4名

[障害別利用者人数]

障害種別	知的障害 (自閉症含む)	精神障害	身体障害
利用者数(人)	20	5	2

※精神障害の方のご利用が増えてきている為、現状の施設環境では他障害の方との共生が難しくなっている。

※令和元年5月1日現在の障害別利用者数 (登録利用者 27名)

障害種別	知的障害 (自閉症含む)	精神障害	身体障害
利用者数(人)	22	5	2

※現時点で、来年度の入所希望者が3名あるため、登録者は30名になることが予測される。

2. 活動報告

環境整備

・精神障害の方の利用が増えてきている。若くてエネルギッシュな自閉症の方との共生が難しい為、静かに作業できるパーソナルスペースが必要となってくるが、限られた施設内では確保が難しい為、時間差出勤を提示し、少しでも安心して通所できるようにしている。

・狭い室内だけでは気分転換が図れないため、職員が「四季の里」の敷地内に手作りベンチを設置。休憩時間にゆったりと過ごせるようになった。

・「四季の里」の草取り作業を園芸班の作業として取り入れている。冬季は風も強くなかなかできる日は少なかったが、季節が良くなると、さわやかな風が気持ちよく新緑や草花が多い茂り、利用者にとってもリラックス空間となっている。

・敷地内からの急な飛び出しを防ぐために、簡易的ではあるが駐車場に仕切りのフェンスを設けた。ワンクッションあるだけで、衝動行為は防ぐことができているが、利用者様の安全確保であったり、

喫茶を訪れるお客様や来客者に分かり辛いこと、四季の里の強風にあおられて危険なことを加味すると、四季の里として早急に頑丈な門扉設置の検討をしたいと考える。

「ハーモニーまつり」

・事業所運営の理解を深めていただけるよう、利用者・保護者・職員間の交流を図るため楽しい祭を企画し家族で参加していただいた。喫茶で行う昼食づくりは結構好評で、日頃はあまり食に興味を示さない利用者さんも楽しんで食事をしていた。土曜に営業をしていると、必ず、飛び込みで喫茶のお客様がいらっしゃる。

3. 成果

各作業班の活動が安定してきた為、各班で収入につながる商品開発ができるようになってきた。活動が安定してきたため、職員間のコミュニケーションもスムーズに図れるようになってきており、チーム力も育ってきていると思われる。

[紙すき班：パピア：ほぼ自閉症のメンバーで構成されている班]

・紙すきの一連の工程が班内でできるようになり、それぞれができることで集中して仕事を行うことができるようになってきた。

・パピアとしてすき紙を（ハガキ大の和紙：40色：1枚10円）（メッセージカード）商品化することができるようになり、喫茶で販売し、少しずつ収入につなげることができてきている。

[PC班：精神障害の方中心の班]

・精神障害の方の作業として、パソコンの「クラウドワークス」を取り入れたり、LINEスタンプを作成して販売にこぎつけたりと、練習だけではなく、実際に収入につながる仕事を提示し体験することで、利用者様のモチベーションも上がり、休まず継続して通所できるようになってきている。

[工房班：Zatta 雑貨]

・On-R バックの制作が順調。作業工程もいろいろあり、職員の支援で楽しく作業を行うことができている。販売店舗がない為、大々的には販売できてはいないが、訪れた見学者が気に入って買って下さることが多い。

・A4判の紙すきにチャレンジして商品化した。

[園芸班]

・ハーモニーの玄関先で鉢花やプランタに寄せ植えした花等を販売しているが、喫茶のお客様だけではなく、わざわざ訪ねて下さるお客様も増えてきている。

[喫茶]

・モーニングメニューも季節に合わせて温かいスープを加えたりして工夫をした。ひと手間かけたエッグトーストセットも好評で、リーピーターのお客様も増えてきている。売上も少しずつではあるがのびてきている。

・喫茶のお客様から『午後からの時間（14：00～16：00）場所を貸してほしい』といわれる。地域との交流になるため、検討していきたい。

4. 見えてきた課題

①生活介護の利用を希望される方は、重度の方が多く、どうしてもパーソナルスペースの必要性が高くなってしまふ。現状の施設においてはいろいろな配慮を行なってはいるが、今以上に受け入れようとする、個々のニーズへの対応がかなり難しくなってくることが予測される。

・精神障害の方、自閉症の方の利用希望が増えてきている。

- ・施設が狭い。

以上の2点について討議し、今後の生活介護の方向性を打ち出していく。

②『コミュニティーガーデン四季の里』を法人としてどう整えていくのか。ハーモニーの庭として活用していったらいいのか。

- ・地域との交流（まつり・福祉的避難所）の必要性を考える。

地域活動支援センター わとと

1. 利用者状況（定員17名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数 (日)	4	3	3	4	3	3	3	3	3	3	4	4	48
延利用者数 (人)	64	51	47	67	46	47	43	49	48	49	63	65	639
1日平均利用者数 (人)	16	17	15	16	15	15	15	16	16	17	16	17	191

今年度 月平均営業日数 3.3日
1日平均利用者数 16人

・毎月4日営業を目指しているが、「わとと」の拠点をなかよしえがおの施設としているため、なかよしえがおの営業日と重なると、休業日にせざるを得ない。また、法人の行事（職員研修やまつり）で重なる場合も休業日にしている。

・毎月3日間の申込日を設定するが、定員になり次第締め切るため、初日数時間でほぼ締め切っている状況となっている。どうしても預けたい保護者からは、「何とかならないか」という問い合わせもある。

・月に4回、毎週テーマを決めて参加を募っているが、自分で選んで申し込みをされる利用者が比較的申込時に漏れてしまう傾向にあるため、申込方法の改善が必要になってきている。

2. 活動報告

・毎月第1：工作、第2：屋外活動、第3：昼食づくり、第4：音楽 というテーマで主活動を行っている。お昼の休憩時間の後は、それぞれがやりたいことをしながらゆっくり過ごしている。

3. 見えてきた課題

- ・重度の方のご利用が増えてきているため、個々のニーズに寄り添って楽しい内容づくりを展開し

ようとするとうどうしても職員数の増員が必要となってくる。「職員の支援力アップのための研修」としての位置づけで、各事業所の職員がプラスオンの業務として補っているのが現状である。それぞれのプログラムの中で、個々の利用者がどうしたら楽しく過ごせるか、活動の中身を深めていくためにも、専属職員を配置するなど、職員の充足が必要である。

共同生活援助事業 なしの木ホーム

1. 利用者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	-	22	26	26	24	25	23	22	19	19	20	21	247
延利用者数	-	126	151	156	143	131	134	126	103	112	115	121	1418
平均(人)	-	5.72	5.8	6	5.95	5.24	5.82	5.72	5.42	5.89	5.75	5.76	5.74

定員6名のうち登録者6名で利用定員は満たしている。

登録者の事情や病気で、実家に戻ったりすることが多く、稼働率は95.6%に止まっている。

2. 活動報告

今年度は平日や単発の祝日はホームの開所日になっているが、土曜日の午前10時以降から月曜日の夕方までと長期休暇は閉所する形式で運営を行った。

日中の通所事業所からホームへ帰宅後、夕食までの時間は、男性利用者は入浴時間になっており、全介助や一部介助をしながら入浴を支援している。女性利用者は自室でゆっくり好きなことをして過ごしたり、連れ立って近くのコンビニや四季の里の敷地内を散歩したり、夕食をつくっている世話人の調理のお手伝いをしたりと思い思いの時間をゆるやかな見守りの中で過ごしている。

下半期は男女関係なく、調理をやってみたい人は、朝夕食の準備の折に積極的に関わってもらえるようにし、世話人や生活支援員とのコミュニケーションを楽しみながら、自分たちの食事の準備をすることをを行った。

夕食は概ね午後6時から7時の間で提供され、15分から30分くらいで食事の時間が終わっている。その後、女性利用者は順番に入浴し、午後9時40分までには全員入浴が終わっている。入浴していない女性利用者と男性利用者は居間でTVを観賞しながら団欒のひと時を楽しんだり、世話人や生活支援員さんにやり方を教えてもらいながら自室を掃除したりと落ち着いた日常が送れる環境を提供している。

全員入浴後、浴室の清掃や洗濯を行い、ひとりひとりのペースに合わせて、自分で洗濯物が干せるよう一部介助をしながら、ハンガー掛けを行った。

午後9時から午後10時30分の間で就寝できるように口腔衛生や服薬などを行い、各自の生活リズムに合わせて声掛けや介助を行っている。

夜間帯は、夜間支援員をひとり配置し、何かあった際に対応できるように見守りと居室の定時巡回を行い、健やかな睡眠環境が確保されるように配慮している。

朝は7時に起床の声掛けや食前の服薬等の支援を行い、7時30分には朝食が食べられるように準備している。朝食後は、外出するための準備や支度の手伝いをするなどの支援を行っている。

8時40分にポレポレハウスの利用者4名を送り出し、9時には、ハーモニーの利用者1名を送り出している。9時50分頃に残りの1名をハーモニーへ送り出し、施設の戸締り・消灯などを点検し退所している。

3. 成果

①わかりやすい日課

・毎日、一定の生活リズムで過ごせるようにゆるやかな日課に合わせて、生活支援の提供を行っている。

➡ホームでの帰宅・入浴・夕食・就寝・起床・朝食・出勤というある程度決まった時間帯での行動を中心に、個人個人の生活スタイルに合わせた支援を行っているので、ホームシックになることもなく、安心して過ごせているようである。

②自立に向けた生活体験

・自分の部屋を掃除するという練習を行っている。

➡掃除機を使ったことのない利用者ばかりのため、週に2、3回、ポレポレハウスやハーモニーからの帰宅後、夕食までの時間や入浴後の時間で、生活支援員や世話人と自室の掃除機がけを一緒にやったり、ゴミ箱のゴミ出しを行ったりと、掃除をすることの意識付けを行いながら、やれることを一つ一つ本人のペースに合わせて行っている。

・料理をつくるという練習を行っている。

➡世話人の朝食や夕食準備の際に、利用者が関われそうな工程のところを一緒に調理することで、料理をつくるというイメージができるようにしている。

・洗濯をしたり、ハンガー掛けの練習を行っている。

➡洗濯機に表示される洗剤の必要量を理解できるように説明しながら、一緒に行った。

洗濯物をハンガーに干す作業を女性利用者は入居当初から行っており、自分のものは自分で干すという習慣が身についてきている。男性利用者は下半期から取り組んでおり、身体的に難しい1名を除いて

自分でやるという意識付けを行っている。

③余暇の過ごし方

・これまでの生活スタイルを大切に、個々人の余暇の過ごし方を尊重している。

➡自室でひとりゆっくりと好きなこと（部屋の整理・テレビ観賞など）をして過ごしている。

➡居間でテレビ観賞や好きナンプレなどをして過ごしている。

➡自室でテレビやビデオ観賞をしたり、パソコンやスマホでインターネットを使用している。

➡居間や食堂で世話人や生活支援員と談笑したり、お手伝いをしたり、テレビを観て過ごしている。

➡自室で日記を書いたり、通っている塾の宿題をしたり、テレビを観たり、スマホでメールや電話をして過ごしている。

➡居間や食堂で、世話人や生活支援員の働いている様子を眺めたり、テレビを観たりと、いつも

ニコニコしながらゆっくりと過ごされている。

4. 見えてきた課題

- ① 保護者の高齢化や逝去に伴い、土・日曜日や祝日・長期休暇などもホームで暮らせる体制の整備が急務である。また、日中活動の場所や移動支援などホームの職員配置のない時間帯の活動場所の確保が必須であり、相談支援事業所との連携が必須である。
- ② 個別の集約された記録がないため、日別の過去の記録を振り返って該当事項を探る必要があるため個別の記録ファイルを準備する必要がある。
- ③ 中核となる現場職員がいないため、各回担当職員それぞれが、積極的に連絡事項等を確認し、利用者ひとりひとりに必要な支援内容を把握し、サービス提供内容の充実を図っていく。
- ④ 人員配置不足。求人を出したり、職員や利用者保護者など関係者から紹介による人材採用を行っていく。

併設型短期入所事業 チャレンジホーム

1. 利用者状況

1日 定員1名で、グループホームと同時に事業所は認可されている。
平成30年度は、平成31年3月22日に一人利用者があったのみである。

2. 活動報告

平成31年1月に社会福祉法人ポレポレの事業をご利用いただいている成人の方の保護者を対象に説明会のご案内をし、1月下旬に3回に渡って説明会を実施した。

説明会の参加者は13名おり、そのうち2月にハーモニーの女性利用者が1名、3月にハーモニーの男性利用者が1名で計2名の利用契約があった。

日程の都合が悪く、説明会には参加できなかったが、契約を検討したいと考えている保護者の声もあがっており、今後は随時個別対応をしていく予定である。

また、日進市の相談支援センターからは、いつになったら利用できるのかというお問合せが度々あり、当法人の利用者以外にも地域ニーズが高いようである。

3. 成果

ハーモニーの女性利用者が3月に1日利用されたが、短期入所を利用するということでとても不安を抱いてしまわれていた。

前日から落ち着かず、夜も寝不足状態で、当日の日中活動時は生活介護事業所ハーモニーで、気持ちが不安定になって絶えず落ち着かない行動をとってみえた。

しかし、そんな状況の中でも、短期入所の施設の中を本人に確認してもらい、ゆったりとした自由な雰囲気をつくり出したことで、次第に落ち着いた行動をとられるようになった。

また、食事をグループホームの利用者と同じ空間で摂ることができたり、食後に居間でTVを観

て過ごしたり、入浴も生活支援員の声掛けで概ね自分で身体を洗うことができたりと、チャレンジホームは安心して過ごせる空間であるという認識をしてもらえたことは、世話人や生活支援員の支援の仕方についての自信にも繋がった。

4. 見えてきた課題

- ・現在のグループホームの利用者が、比較的声掛けで行動ができているため、より支援が必要な利用者に対して、職員が対応できるかという不安要素がある。
- ・グループホームが落ち着いてきた中で、短期入所の利用者という新しい刺激に対して、グループホームの利用者が適応できていけるのかという不安要素がある。
- ・短期入所の利用者の状況によっては、人員配置を増員する必要があるが見込まれるが、職員確保ができていない。
- ・職員研修を通じて、職員ひとりひとりの障害者への理解と支援をしていくという意識を高めていく必要がある。

放課後等デイサービス デイサービスポレポレ (定員 10名)

1. 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所 日数	21	21	22	22	20	20	23	22	20	19	20	21	251
延利 用者 数	110	139	143	165	148	132	138	144	148	129	139	148	1683
1日平 均利用 者数	5.2	6.6	6.5	7.5	7.4	6.6	6	6.5	7.4	6.8	7	7	6.7

※平成31年3月31日現在

【登録人数】 14名

【新規利用者】 4月から3名（えがおから移籍）

2. 活動報告

ストレングスの強化

個々に合わせたコミュニケーション方法で、挨拶や自分の気持ちを言葉で伝えることができるようにした。

挨拶に関しては、場面ごとに支援員と一緒に復唱しながら習慣化できるようにした。

帰りの会の今日の出来事の発表の際には、自分の言葉で話ができる利用者は自分で考えて話し、自分で考えることが難しい利用者は文字で選択肢を用意し、それを選んで読み上げてもらい、それも難しい利用者は支援員と一緒に復唱しながら話してもらおう等、それぞれができる形で発言できるように

工夫した。

実習体験の強化

11～2月の4か月間、毎週木曜日の作業訓練の時間に、生活介護事業所ハーモニーで紙すき体験を行った。実際にハーモニーの作業で行っている紙すき手順をもとに、ハーモニーの職員にも指導してもらいながら、実際の作業を体験した。

紙すきは学校の作業でも行っていることもあり、作業自体はスムーズに取り組むことができた。

また、実際の事業所で作業をしたことで、デイポレ内での作業とは違い、「仕事をする」という意識付けをすることができた。

場所が違うことで、見慣れたメンバーとの作業でも集中して取り組むことができていた。

また、実習体験をさせたいという保護者の要望により、普段木曜日に利用していない利用者の利用もあった。

活動の中身を明確化

クッキングや創作活動等、作業工程がはっきりしている活動に関しては、イラストや写真、文字で作業手順を示すことで、支援員の指示だけでなく本人たちが自分で考えながら作業を進めることができるようにした。

また、クッキングや音楽等、みんなで行う活動に関しては、それぞれに役割を担ってもらうことで全員が何かしら活動に関われるようにした。最初から最後までずっと活動に参加することが難しい利用者でも、自分の役割の時には活動の中に入ることができていた。

3. 成果

- ・個々に合わせたコミュニケーション方法を提示したことで、それぞれが自分の言葉で挨拶や発言ができるようになった。
- ・スケジュールの細分化（主活動終了後に自由時間を設けた）や、主活動の内容を明確化、役割分担を設けたことで、全員が主体的に主活動に参加できるようになった。
- ・ハーモニーでの実習体験をしたことで、「仕事をする」という意識付けをすることができた。

4. 見えてきた課題

主活動の見直し

利用者の特性が年々変わってきており、今まで行っていた主活動の見直しが必要になってきた。

現在毎週水曜日は音楽を行っており、季節の歌を歌ったり、クリスマス会に向けてハンドベル演奏を練習したりしていたが、音楽が好きな利用者が減ってきており、活動自体が成り立たなくなっている。

そのため、水曜日の活動の見直しを行い、卒業後社会に出た時に身につけておくべきスキルを身につけることができるような活動を取り入れていきたい。

個々のレベルに合わせた実習体験を取り入れる

今年度はハーモニーの紙すき体験を実習体験とし、全員が同じ作業体験を行った。

しかし、利用者によっては作業内容をレベルアップさせたい利用者もいるため、今後は体験内容をいくつか用意し、個々のレベルに合わせた実習体験を取り入れていく。

放課後等デイサービス事業所 えがお
(定員 6 名)

1. 利用状況

【登録者数】 17 名

(学年内訳) 高校 1 年 : 1 名、中学 3 年 : 3 名、中学 2 年 : 7 名
中学 1 年 : 3 名、小学 6 年 : 3 名

(市内内訳) 日進市 : 9 名、みよし市 : 5 名、長久手市 : 2 名、豊田市 : 1 名

2. 活動報告

今年度も言葉遣いや社会性、実体験による経験の幅を広げることが大切にながら、「子どもた

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総利用者数	148	140	132	135	141	134	142	144	141	111	134	146	1648
開所日数	21日	21日	22日	22日	20日	20日	23日	22日	20日	19日	20日	21日	251日
1日平均利用者数	7.0	7.0	6.3	6.1	7.0	6.4	6.2	6.5	7.0	5.8	6.7	7.0	6.5

ちの出来た」という体験を増やしていけるように支援した。また、将来、社会に出ていく上で、身に付けておいてほしい能力が少しでも獲得できるように支援を行った。

曜日ごとに行う活動を分けて運動、工作、クッキング、アイロンビーズ、などの活動を行った。しかしながら、利用する子どもが変化したことに伴い、子どもたちのニーズも変化してきたため、年度の途中からは、今まで行っていた活動内容を変更して、利用者一人一人のニーズに合う活動を取り入れてきた。また、活動内容も個々によって内容を変えられるよう手順などの工夫を行い、一人一人の能力にあった活動を行ってきたが、まだまだ行き届かない部分も多く、継続的に改善が必要であると感じる。

集団遊びなどの友だちと一緒にいる活動を通して、友だちとの関わり方や集団での過ごし方、ルールを守ることなどを経験した。活動中の友だちとの意見の食い違いなどはなるべく子どもたちで解決出来るよう見守り、状況に応じて、介入し気持ちを代弁したり、助言を行い、問題を解決できるようにしてきた。

長期休暇には、お店でごはんを食べる経験や公共交通機関、公共施設を利用し、お金の使い方や公共の場での過ごし方を学んだ。初めて切符を購入する子もいてとてもよい経験となった。

職員間での情報共有については、14時から申し送りを行う時間を設け、一日の流れや子どもの様子について話をする時間を設けた。また、支援終了時の反省会にて、振り返りを行い支援の手立てを再度話し合うことを行った。

3. 成果

- ・活動内容を個々のレベルにあったものに変更しそれぞれが楽しむことの出来る内容となってきた。
- ・長期休暇の外出行事の際に、事前に持ち物などを伝えるためのしおりを作成し渡すことで、事前の準備や当日、子どもや職員の混乱が少なく落ち着いて外出体験を行うことが出来た。
- ・職員間での情報共有を行うことで、支援の方法を全職員で考えることが出来るようになってきた。

4. 見えてきた課題

- ・今以上に個々のニーズの把握とニーズに合った活動の提供。
- ・職員間での支援方法の統一
- ・活動内容の明確化
- ・活動空間の構造化

放課後等デイサービス事業所 げんき

(定員 10 名)

1. 利用者状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21日	21日	22日	22日	20日	20日	23日	22日	20日	19日	20日	21日	251
延利用者数	183	143	158	158	148	140	157	146	147	147	139	139	1805
1日平均数	8.7	6.8	7.1	7.1	7.4	7	6.8	6.6	7.3	7.7	6.9	6.6	7.1

平成 31 年 3 月 31 日現在

【新規利用者】

新一年生 3 名

【登録人数】 19 名

(学年内訳) 6 年生 6 名、5 年生 2 名、4 年生 7 名、3 年生 1 名、2 年生 2 名
1 年生 3 名

(市内内訳) 日進市 : 11 名 みよし市 : 2 名 長久手市 : 2 名 豊田市 : 2 名

※今年度に入ってから保護者のニーズや体調なので利用が終了となっている利用者が 2 名いる。

※後半、2 名の利用者が利用日数を 1 日増加

2. 活動報告

(1) 基本方針について

- ・週間予定に沿って主活動を決め、行うことが出来ている。
- ・夏休みよりお買い物体験を活動に取り入れ、お金の勉強やお店で買い物をする模擬体験を行った。練習を重ねて実際のお店に買い物に行く体験も行った。
- ・夏休みの活動では、例年行っている水遊びは、午前、午後と行なった。
- ・郊外体験では、公共交通機関の乗り物、リニモを利用することで、マナーの学習を行いながら、友達と出かける楽しさを体験。
- ・愛知牧場や水族館に出かけ、沢山の人がいる中での観覧を支援者と一緒に楽しむ体験ができた。
- ・季節折々の行事を「えがお」「デイサービスポレポレ」との合同行事で体験することができた。(焼き芋体験、クリスマス会など)

(2) 習慣カリキュラム

- ・クッキングでの調理体験を通じて、嫌いな物・食べたことのない物にチャレンジし保護者に伝えることができた。
- ・定期的（月に2回）に習字を行ったことで、墨を使う楽しさが身についてきた。
- ・工作では、毎月課題を決め、利用者全員持ち帰ることができた。3月にはアルバムを製作し、一年の振り返りを利用者とし、成長を保護者に伝えることができた。
- ・運動活動では、夏にはプールを用意し、ほぼ毎日行い体力作りや身体機能運動を行った。学校のある時は、庭に鉄棒、トランポリン、平均台を出し、体を動かした。時間のある日には近くの公園に出かけた。

(3) 職員体制

- ・6月に7hパートを配置できたが、9月に男性パートが自分自身のステップアップのため退職した。その後、増員はしていない。

3. 成果

- ・今年度に入り3年継続して働くパートが3人になり、支援が落ち着いてきたことで利用者も安心して過ごせている。
- ・6月よりパートを配属したことで個々の支援ができ、全体が落ち着いて過ごせている。
- ・高学年が多くなったことで、低学年を引っ張って活動ができる。
- ・夏休みの体験など職員のスキルがついてきているので、スムーズになってきた。
- ・3月に中日新聞の助成金に応募し、リフトアップ車両の助成金が受けられることになった。

4. 見えてきた課題

- ・低学年と高学年との下校時間の差の問題。
- ・環境を整えていき、活動内容で利用者を分けて支援する時間がとれるようにする。
- ・親のニーズを拾い上げていく。
- ・9月で男性職員が退職され高学年の体の大きい利用者を支援するにあたり、男性職員を配置していく必要がある。

- ・利用者が平均7人なので、平均10人までにする。
- ・送迎車（ワンボックスタイプ）が2台とも13万キロを超えてきているので買い替えを検討していく。
- ・環境整備をする。（裏のスペースの活用、庭の活用）
- ・げんきの敷地の裏に道の駅ができることが確定し、交通量が多くなる可能性があり、今でも道路に面していて送迎の乗車時に危険を感じていることもあり、移転を視野に計画を立てる必要がある。

児童発達支援事業所 なかよし

1、利用者状況 （定員 4人 登録者数 12名 平成31年3月31日現在）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所 日数	9	13	12	13	10	10	14	12	11	11	11	12	138
延利用 者数	22	31	42	46	35	36	54	48	45	47	44	45	495
1日 平均数	2	2	3	3	3	3	3	4	4	4	4	3	3

平成31年3月31日現在

【登録人数】 13名 （2,3歳児 4名 4,5歳児 7名 6歳児 2名）

4月の時点で登録人数が卒園（就学のため）やすくすくへの移動などで減少した。2歳児が幼稚園・保育園に入園したことで、幼稚園行事や病欠での当日キャンセルが前半多くみられた。見学希望者は4月から受け入れ、支援センターからの要望もあり、9月をめどに卒園出来る利用者に入れ替わるように計画を立て、新利用者の受け入れも可能にした。

2、活動内容

- ① 曜日よりの個別指導を責任もって行う職員を配置し取り組んでいる。
- ② 集団を意識した活動内容を会議や朝のミーティングで話し合うことが出来ている。
- ③ 5月こいのぼり7月七夕。親子でクッキング（カレーライス）8月水遊び9月お月見。11月焼き芋体験。12月クリスマス会。2月節分豆まき。3月親子でクッキング（手巻き寿司）。と四季折々の行事を行った。
- ④ 6月モリコロパークに親子や単独で遠足10月東山動物園、愛知牧場に遠足を計画し出かけた。
- ⑤ 保護者面談を6,7月、11月と2回行った。
- ⑥ 問題がある利用者に対して保護者の承諾の上、保育園や幼稚園に出向いた。
- ⑦ 畑で夏野菜を育て、食育に役立てた。

3、成果

- ① 療育や保育内容が安定してきたことで、利用者の確保につながってきている。
- ② 常勤職員を配置したのとで、なかよしとえがおの業務分担を分けることができ、職員の動きがよくなった。
- ③ 児童発達支援管理責任者を専属で置くことで、個々をより把握し保護者との話し合いがスムーズに運んでいる。見学者の対応の迅速にできることで利用者確保が随時できた。

4、今度の課題

- ① 療育の視点での保育内容の充実
- ② 金曜開所に向けての職員体制
- ③ 放課後等デイサービス「えがお」との環境調整が難しく、活動の流れや活動の中身作りに不都合が生じることがあるため、環境の見直しが必要。なかよしの利用者の見込みが期待されているので、単独事業にむけての事業展開を考えていく必要がある。
- ④ 基幹センターとの連携が不可欠だが、相談員の入れ替わりにより円滑だった関係性が一からになったので、積極的に連絡を取り合う関係性を築いていくよう心掛ける。